

# 中尾小だより

〒336-0932 さいたま市緑区中尾2596-1

HP <http://nakao-e.saitama-city.ed.jp>

TEL 048-873-0216

FAX 048-810-1120

知・徳・体の調和のとれた  
心豊かな児童の育成

学びいっぱい 優しさいっぱい 元気いっぱい

## 天馬空を行く ～ 令和8年のはじまりにあたり ～

校長 石田 成夫

新しい年、令和8年を迎え、中尾っ子の皆さん、保護者の皆さま、そして日頃より本校の教育活動を温かく支えてくださっている地域の皆さまに、新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は多くのご理解とご協力をいただき、子どもたちが安心して学び、成長できる学校づくりを進めることができましたこと、心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



さて、今年の干支は「馬」です。古くから馬は、人々の暮らしを支え、遠くまで駆ける力強さや、仲間と息を合わせて進む賢さを象徴する動物として親しまれてきました。人と馬の関りの深さを表すように、馬にまつわる故事成語も多く存在し、例えば「天馬空を行く」という言葉は、馬が大空を駆けるように、自由でのびのびとした発想や、枠にとらわれない挑戦を意味します。

また、「千里の馬も伯楽に逢わず」という言葉は、どんなに優れた馬でも、良い理解者に出会わなければ力を発揮できないというたとえです。これは、子どもたち一人ひとりの可能性を見つけ、伸ばしていく大人の役割と重要性を改めて思い起こさせてくれます。

子どもたちの学校生活に置き換えてみると、馬のように「自分のペースで着実に進むこと」、そして「周りとの協力しながら力を発揮すること」は、個々の学習や友だちとの協働を進めるにあたって欠かせない力です。勉強でも運動でも、取り組んだことがすぐに結果として表れないこともあります。毎日の着実な積み重ねは自信につながり、将来の可能性を広げてくれます。

そして、友達と意見を交わしたり、助け合ったりする経験は、これからの社会で求められるコミュニケーション力や協働する力を育ててくれます。

一方、あまりよくない意味で使われる「馬」もあります。例えば、人の話を聞き流すという意味の「馬耳東風」や、いくら良いことを言って聞かせても、相手に聞く気がなければ全く効果がないという意味の「馬の耳に念仏」など、話を聞かない例えとして使われますが、本当に馬は話を聞かないのでしょうか。実際は逆で、馬はもともと見通しのよい草原で暮らし、外敵の接近をいち早く察知して、足の速さを生かして逃げる動物なので、音や気配にとっても敏感で、人の声わずかな違いや調子を聞き分け、感情までも読み取る力があるそうです。

つまり、馬は「聞かない」のではなく、むしろ「聞きすぎる」くらいに周囲に注意を払う動物なのです。子どもたちには、馬の「聞く力」を見習い、相手の言葉にしっかり耳を傾け、気持ちを察し、思いやりをもって行動できる一年にしてほしいと思っています。

現代は、変化が早く、先の見通しが難しい時代と言われます。そのような時代を生きて行く中尾っ子たちには「自分で考える力」「相手を思いやる心」「新しいことに挑戦する姿勢」を大切にしてほしいと思います。そして、記録に残るような速い馬でも、走り出す時には最初の一步があります。失敗を恐れず、まずは一步踏み出してみること。その一步が、草原を颯爽と駆け回る馬のように、未来の可能性を大きく広げてくれます。

令和8年も、子どもたちが勇気をもって未来への一步を踏み出せるよう、教職員一同、丁寧な関わりと学びの充実に努めてまいります。保護者・地域の皆さまには、引き続き温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

